いきいきライフに乾杯！

被災地の松に思いを込めて

～表札づくりを通して～

瑞鳳山・永宝寺住職　**髙木　堅持さん**（74歳）

表札のことについては、新聞やテレビ等で報道され、すでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、今大仕事を終えられ、ひと息ついたところで、その経緯や心境などについてお話を伺うため、小曽根町の永宝寺におじゃましました。

きっかけは・・

昨年の5月頃、被災地支援にとても熱心に取り組んでいる地元の筑波公民館長から、岩手・高田松原の松の木片を見せられ、表札作りを思い立ちました。

筑波地区の人たちと被災地視察へ向かうバスの中で見本を見せたところ多くの希望があり、当初は40枚ほど作り、材料代のみで領布しました。

反響にビックリ

このことが、新聞やテレビで報道されると、たちまち大反響となり、北は北海道、南は九州に至るまで各地から注文が殺到しました。なにしろ一人の手作業ですので、作成する枚数にも限りがあります。でも300枚以上作りました。

心の込もった支援

その後、陸前高田市の支援に結び付けようと、材料代プラスアルファで領布したところ、100万円近くの支援金が集まり、その支援金で、陸前高田市の子どもたちにピッチングマシンを2台贈ることができました。

もったいない精神から得たもの

わたしは「もったいない」という気持ちが人一倍強いのかも…。あの高田松原の松を、がれきとして処理してしまうなんてもったいない！何かに利用できないかとの思いがあったからでしょう。

出来栄(ば)えを喜んでくれる人、字体に注文を付ける人、注文したのに受け取りを拒否する人など様々でしたが、感謝の手紙や、励ましの電話などに支えられ、続けることができました。これらすべてが『縁』なのです。

髙木さんは人一倍好奇心が旺盛で、現在はメダカやカブトムシの生育に取り組んでいます。お話を伺い、改めて生きる勇気をいただきました。

（M・H）

カブトムシに夢中の髙木さん

＊現在、表札づくりは終了いたしました。

＊＊＊編集後記＊＊＊

女性中心の職場で孤軍奮闘する男性保育士。子どもに対する愛情とエネルギッシュな動きで、存在価値が高まっています。

また、被災地の復興に熱い思いを紡いで手作業でその思いを届けている方、育児や仕事の合間に女性消防隊員として訓練に励んでいる方など、様々な人たちと出会い、とてもさわやかな気持ちで編集を終えることができました。

（M.H）

＊男女共同参画週間事業標語入選作品＊

平成25年度男女共同参画週間事業として、小学校5年生～高校生を対象に、男女共同参画をテーマとした標語を募集しました。応募総数1,109点の中から、審査の結果、次の2点が、最優秀賞に選ばれました。おめでとうございます！

☆小学校5・6年生の部

『あいさつで 心のまどを 全開に。』

山前小6年　香山亜澄さん

☆中学生・高校生の部

『差し出す手 認める心 誰にでも』

愛宕台中2年 飯塚詩音さん

●編集　「かけはし」は市民の編集委員と人権推進課が共同で年2回発行しています。<編集委員>樫村美智子、菊地正之、小林知子、保々政司、本島多加子（50音順）
●発行　足利市総務部人権推進課　〒326-0823 足利市朝倉町264　TEL73-8080　FAX 73-8066　●E-mail　danjyo@city.ashikaga.lg.jp
●ホームページアドレス　http://www.city.ashikaga.lg.jp　●表紙の題字は根岸君子さんです。